

## 医療経済評価における非選好型尺度から QOL 値へのマッピングに対する 欠測データ解析からのアプローチ

【背景】医療技術の経済性を評価する医療経済評価研究では、質調整生存年（quality-adjusted life year: QALY）が健康アウトカムとして標準的に用いられる。QALY を算出するためには選好にもとづく QOL 値が必要であるが、医療経済評価に生存期間などの重要な情報を提供する臨床試験では測定されていないことが多い。この問題を解決するために、臨床試験で測定された疾患特異的尺度などの非選好型尺度を QOL 値へ変換するマッピングという考え方が提案され、多くのマッピング手法が開発されるとともに実際の医療経済評価でも利用されている。マッピングは主に非選好型尺度で QOL 値を予測する形で行われ、QOL 値の予測精度でマッピング手法の性能を評価することが定着している。しかし本来、マッピングの目的は個々人の QOL 値の予測ではなく医療経済評価にあったはずである。

【目的】マッピングの目的に沿った形で妥当なマッピングを定義し、そのためにマッピング手法が満たすべき条件を整理する。

【方法・結果】臨床試験にもとづく医療経済評価を想定し、マッピングを「QOL 値の予測の問題」ではなく「臨床試験における QOL 値の欠測の問題」として捉え直した。その上で、臨床試験での各群の期待 QOL 値を一致推定できるマッピング手法を妥当なマッピング手法と定義した。マッピング手法が妥当であるための十分条件のひとつを導いた。導いた条件が成り立たない具体的状況および導いた条件を成り立たせるための具体的方策を整理した。シミュレーション実験では以上の点を確認するとともに、QOL 値の予測精度は医療経済評価で用いる期待 QOL 値におけるバイアスを必ずしも反映しないことを示した。

【今後の方針】導いたマッピング手法が妥当であるための十分条件が既存のマッピング手法で成り立っているのかを検討する実証研究をがん領域で行いたい。

### 【文献】

Brazier JE, Yang Y, Tsuchiya A, Rowen DL. A review of studies mapping (or cross walking) non-preference based measures of health to generic preference-based measures. *Eur J Health Econ*. 2010;**11**:215–25.

Petrou S, Rivero-Arias O, Dakin H, et al. The MAPS reporting statement for studies mapping onto generic preference-based outcome measures: explanation and elaboration. *Pharmacoeconomics*. 2015;**33**:993–1011.

Wailoo AJ, Hernandez-Alava M, Manca A, et al. Mapping to estimate health-state utility from non-preference-based outcome measures: an ISPOR Good Practices for Outcomes Research Task Force Report. *Value Health*. 2017;**20**:18–27.